

南アルプス

大武川 一ノ沢大滝

2012.2.4 (土) -5 (日)

L: 齊藤、河崎 (記)

ここ数年でアルパインアイスはそれなりに行ってきたが、このルートも今シーズン行きたい所であった。

アプローチは昨年、岳人に発表された、離山北稜から行く事にした。

前夜は、昨年の黄蓮谷の時に泊まった“道の駅はくしゅう”に泊まった。意外と道路から近いのでうるさい事もあり、他に良い場所がないかと探したが、結局戻って来て落ち着いた。しかし、裏の方に静かな場所を見つけ、前回よりは静かに寝られた。

2/4 (土)

朝、近くのコンビニで朝食、アプローチの林道を詰め、ゲートのある手前に車を置く。

すると一台の車が置いてあり、カップラーメンのゴミが中にある。まだ新しい感じだったので今朝出たパーティか？しかもレンタカーだった。

準備をしていると車が何台か来て、山屋かと思いきや全て現場の工事車でゲートを開けて林道の中に入って行く。

林道アプローチ少々、その後大武川を渡るが、岳人に載っていたような橋はかなり先までいかないと無さそうで、仕方なく飛び石伝いに渡渉する。

そこから離山北稜を登るが、先日降った雪も思ったより少なく、快適に高度を上げていく。自分は今回のアプローチ用にモンベルの“チェンスパイク”なるものを購入。アプローチでアイス用アイゼンを使うのがもったいないからだが、中々快適でお

気に入りの道具になった。

齋藤さんは途中からツボ足だと滑ってアイス用アイゼンを履いていた。

尾根にはウサギなどの足跡がうまく弱点を突いてトレースとなっており、道しるべとなって助かった。



約2時間で1393mに到着、そこからは大滝が見渡せすごい迫力、齋藤さんは“ちょービビってる”と言っていた。

1393mの先のコルから沢状を下る。沢屋のルート取りだ。どんなものかと思っていたが、案外悪い所はなくザイルも使わず、すんなりと本流に降りられた。

そこからはトレースが付いており、しばらく行くと下の大滝と思われる所に着いた。テンバをどうしようかと思っていたが、これ以上行くと良さそうな所がないと思われたので、そこにベースを張る。

さて、アタック装備に切り替え大滝を目指して、時間短縮の為まずは下の大滝は巻いてしまう。しばらく行くとそれなりに大きな滝が目に入る。しかし、大きさが思ったより無く“これは大滝ではないだろう”



などと思い、巻き始めると下の方にも滝が伸びているのが見え、大滝に違いがないと言う事で、向かう事にした。

時間は12時半近くになっていた。早めに登らないとヘッデン下山になるのでさっさと登攀を開始する。



(1ピッチ目) 50m III~IV級、斉藤さんリード。のっぺりとしていて傾斜はないがしっかりと蹴りこまないとアイゼンが刺さらないので丁寧に登っている。50m目いっぱい伸ばしてビレイ。



(2ピッチ目) 30~40m? IV~V級、河崎リード。核心のピッチ。見た目はそれほどでもないが、段々になっていたり登りにくい。最後の方で疲れてきてテンションを掛けてしまい残念。スクリュウが無くなり立っている所でハンギングビレイ。

(3ピッチ目) 約40m? IV級、斉藤さんリード。核心の最後を少しだけ登り、あとはつるつとした氷で疲れる。最後の方はふくらはぎがパンパンになって、セカンドの自分も休み休み行く。

丁度終了点辺りに残置シュリングがあり、もうおいしい所も登ったので、そこから懸垂とする。ブッシュが多く、記録でも厄介だと書いてあったので、引っ掛からないように行ったつもりだったが、2番手の斎藤さんが下りて引いてみるとまさかの引っ掛かり。斉藤さんが登り返してくれて

確認すると、木の枝が有り得ない倒れ方でコブを塞いでいたそう。結構なタイムロスだったが、そこからは順調に下りられて事なきを得た。

下に降りた頃には次第に暗くなってきていたが、最近だいたい日も伸びていたので懸垂途中で暗くならず良かった。

テンバまでは30分程だったがさすがにヘッデンとなってしまった。

テンバに着いた頃にはへとへとで、でも、やり尽くした感があり充実していた。

明日は下山だけなので何も考える事は無く開放感でいっぱいだった。

夜は斎藤さんの特製カレー。バター入りでコクもありうまかった。夜もそれほど冷え込まず、温かく過ごせた。

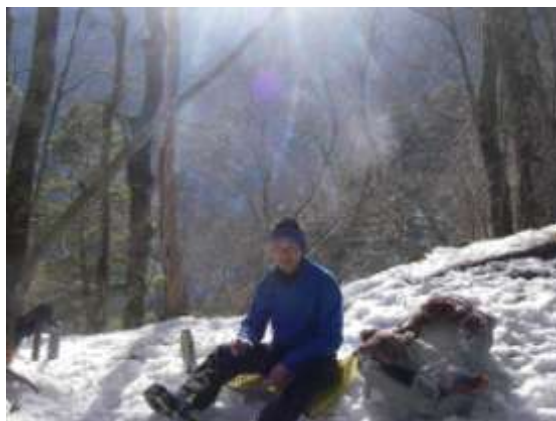
<コースタイム>

6:40 (ゲート出発) ~9:15 (1393m)
~9:52 (一ノ沢出合) ~10:10 (下の大滝)
~10:45 (下の大滝出発) ~12:10 (一ノ沢大滝下) ~12:45 (登攀開始)
~16:10 (終了点) ~17:45 (一ノ沢大滝下) ~18:15 テンバ



2/5 (日)

下山のみである。朝は目覚ましもセットせず、7時頃小鳥のさえずりで目が覚める。理想的な目覚めだ。十分寝たので、疲れも眠さもない。しかし、ふくらはぎは疲れていた。ゆっくりと朝食をとり、再び1393mのコルに向かって沢を詰めていくが、下の方で氷が出ている所があり、自分のチェーンスパイクでは苦戦した。



コルから再び昨日登った大滝を眺める。後は下りだけなのでのんびりとコーヒーを飲んでくつろぐ。

元来たトレースをたどり、昼頃には車に着いた。帰りは近くの森林公園ベルガの温泉に入ってから帰宅した。

一ノ沢大滝、アプローチも尾根から取ったことにより快適であり、大滝も十分登りごたえもあった。今までは沢からのコースが一般的だったかもしれないが、今後は今回のコースが労力も少ないし主流になるのではないかと。2日間とも誰とも合わずひっそりと山奥にある氷瀑を登れ、アルパインアイスの楽しさを味わった。素晴らしいコースだったし、アプローチも楽なのが分かったのでまたいつか行ってみたいルートである。

<コースタイム>

7:00 (起床) ~9:00 (出発) ~10:

10 (1393m) ~12 : 00 車